

「ボーナスと暮らし向きに関するアンケート調査」(2015年冬)の結果

千葉経済センター
(公益財団法人ひまわりベンチャー育成基金)

当センターでは、2015年冬のボーナス予想や暮らし向きについて、千葉銀行各支店の来店客(1,000人)を対象にアンケート調査を実施し、その結果は次のとおりとなった。

概要

<ボーナス予想額 >

56.9万円(前年冬比、3,000円減少(△0.5%))

今冬のボーナス予想額は56.9万円であり、前年の受取額(回答者の実績)を3,000円下回る結果となった。増加率はマイナス0.5%で、昨冬(プラス1.0%)に比較して微減した。ボーナスの受取予想額が前年実績比マイナスになるのは、夏・冬合わせても12年冬以来3年ぶりである。

中国経済の減速による、製造業を中心とした企業の景況感悪化も影響しているものと思われる。

当センターの調査は、県内の給与所得者を対象としているが、今後の暮らし向きには全般的に慎重な姿勢が窺えるアンケート結果となった。

▽ボーナスの増減予想では、「増えそう」は13.6%(昨冬16.0%)と昨冬比2.4ポイント減少、「減りそう」は14.7%(昨冬14.4%)で昨冬比0.3ポイント増加、そして「変わらない」が71.7%(昨冬69.5%)で2.2ポイント増加し、全体としては「減りそう」が「増えそう」を少し上回ることとなったが、「変わらない」が7割強の多数を占めている。

▽ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「生活費の補填」、3位「ローン等の返済」で、以下「教育・教養」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順である。

▽貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」84.6%、「ゆうちょ貯金」7.5%、「社内預金」3.0%で、この3項目で全体の95.1%(昨冬95.9%)を占めている。預貯金以外の金融商品としては投信・株式が全体の3.4%(昨冬3.0%)で若干増加傾向にある。

▽貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位「住宅関連資金」となった。

▽ボーナスで買いたい上位5品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「鞆・ハンドバッグ」、同位「子供服」、5位「くつ」となった。

調査結果

1 ボーナスの増減予想

ボーナスの増減予想では、「増えそう」は 13.6% (昨冬 16.0%) で昨冬比 2.4 ポイント減少、「減りそう」は 14.7% (昨冬 14.4%) で昨冬比 0.3 ポイント増加、そして「変わらない」が 71.7% (昨冬 69.5%) で 2.2 ポイント増加し、全体としては「減りそう」が「増えそう」を少し上回る事となったが、「変わらない」が 7 割強の多数を占めている。

年齢階層別にみると、「増えそう」は「30 歳未満」が 31.6% で 3.7 ポイント増加するが、他の階層は全て「増えそう」と回答した割合が減少している。一方、「減りそう」では、「30 歳未満」「30 歳代」で増加し、「40 歳代」で横ばい、「50 歳以上」では減少している(図表-1)。

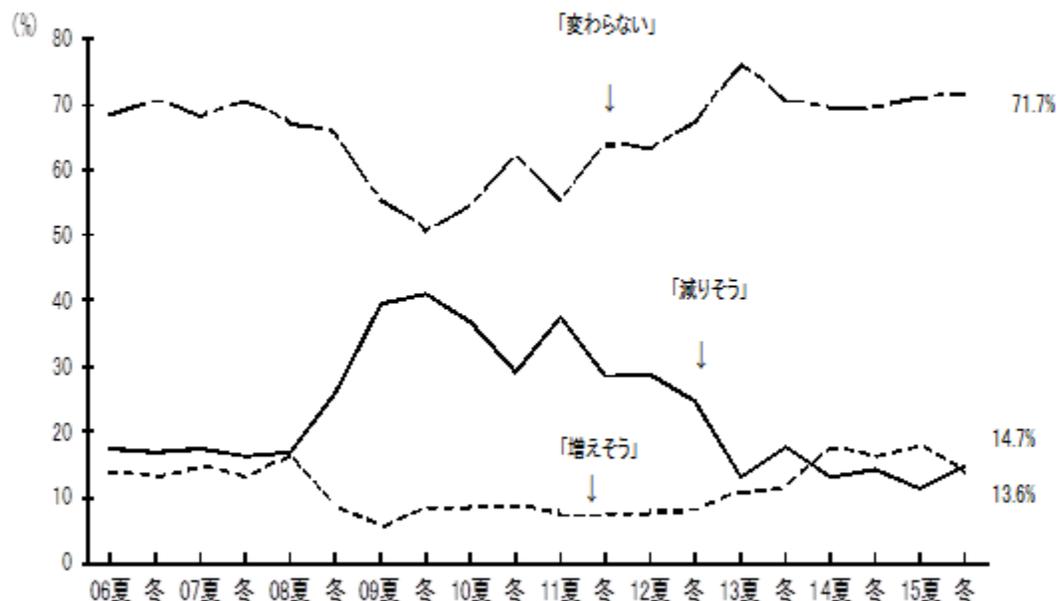
冬のボーナス増減予想割合の推移では、「増えそう」は 2012 年から増加傾向にあったが今冬は減少した。「減りそう」は 2010 年から減少傾向にあったが今冬は微増した。

図表-1 ボーナスの増減予想(対前年比)
(構成比、単位: %)

| | | 「増えそう」 | 「減りそう」 | 「変わらない」 |
|------------------|-----|--------|--------|---------|
| 平均 | 13冬 | 11.8 | 17.7 | 70.5 |
| | 14冬 | 16.0 | 14.4 | 69.5 |
| | 15冬 | 13.6 | 14.7 | 71.7 |
| 30歳未満 | 13冬 | 22.4 | 15.9 | 61.7 |
| | 14冬 | 27.9 | 6.6 | 65.4 |
| | 15冬 | 31.6 | 9.5 | 58.9 |
| 30歳代 | 13冬 | 11.7 | 17.2 | 71.1 |
| | 14冬 | 20.0 | 11.9 | 68.1 |
| | 15冬 | 14.1 | 16.4 | 69.5 |
| 40歳代 | 13冬 | 10.2 | 20.4 | 69.4 |
| | 14冬 | 10.0 | 12.3 | 77.7 |
| | 15冬 | 7.6 | 12.3 | 80.1 |
| 50歳以上 | 13冬 | 7.5 | 16.1 | 76.3 |
| | 14冬 | 11.8 | 24.1 | 64.1 |
| | 15冬 | 9.7 | 18.4 | 71.9 |
| 注) 不明、無回答を除いた構成比 | | | | |

なお、夏・冬のボーナスの増減予想割合の推移は(図表-2)の通りである。

図表-2 ボーナス増減予想割合の推移



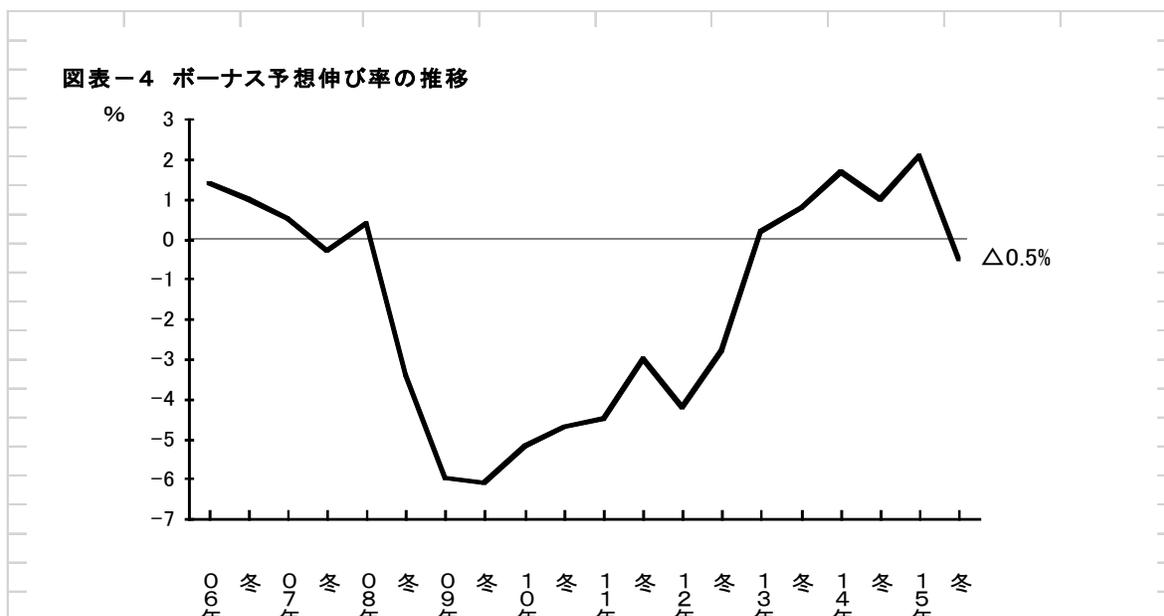
2 ボーナスの予想額

今冬のボーナス予想額は 56.9 万円となり、前年の受取額(回答者の実績)を 3,000 円下回る結果となった。増加率はマイナス 0.5%で、昨冬(プラス 1.0%)に比較して微減した。ボーナスの受取予想額が前年比マイナスとなるのは、夏・冬合わせても 12 年冬以来 3 年ぶりである(図表-4)。中国経済の減速による、製造業を中心とした企業の景況感悪化も影響しているものと思われる。

今冬の調査では、「30 歳未満」で増加、「30 歳代」で横ばい、他の年齢階層では下回る受取額を予想している。また、勤務地別での受取予想額は、都内勤務者が 70.5 万円(昨冬比△1.8%)、県内勤務者が 53.4 万円(昨冬比△0.2%)と県内勤務者の減少率は小さい(図表-3)。なお、参考として県内勤務者のみの数値では、50 歳未満全体では一人当たり平均 800 円の増加、40 歳未満では 16,500 円の増加予想となっている。

図表-3 ボーナス予想額・予想伸び率

| | | 予想額 (万円) | 予想伸び率 (対前年冬、%) |
|-------|----|-------------|-------------------|
| 平均 | | 56.9 | △ 0.5 |
| 30歳未満 | | 39.5 | 6.5 |
| 30 歳代 | | 49.6 | 0.0 |
| 40 歳代 | | 63.7 | △ 1.2 |
| 50歳以上 | | 63.8 | △ 2.1 |
| 勤務地別 | 県内 | 53.4 | △ 0.2 |
| | 東京 | 70.5 | △ 1.8 |



3 ボーナスの配分予定

ボーナスの配分については、1位「貯蓄」、2位「生活費の補填」、3位「ローン等の返済」で、以下「教育・教養」、「買い物」、「旅行・レジャー」の順である。

ボーナスの配分予定は、1位「貯蓄」(38.1%)、2位「生活費の補填」(11.5%)、3位「ローン等の返済」(10.7%)で、以下「教育・教養」(10.0%)、「買い物」(7.1%)、「旅行・レジャー」(5.6%)、「交際費」(2.3%)の順となっている(図表-5)。

1位「貯蓄」、3位「ローン等の返済」の配分割合は両方で受取額全体の半分近くを占めている。従って、実質的に消費に回るボーナスは全体の約半分になるものと思われる。

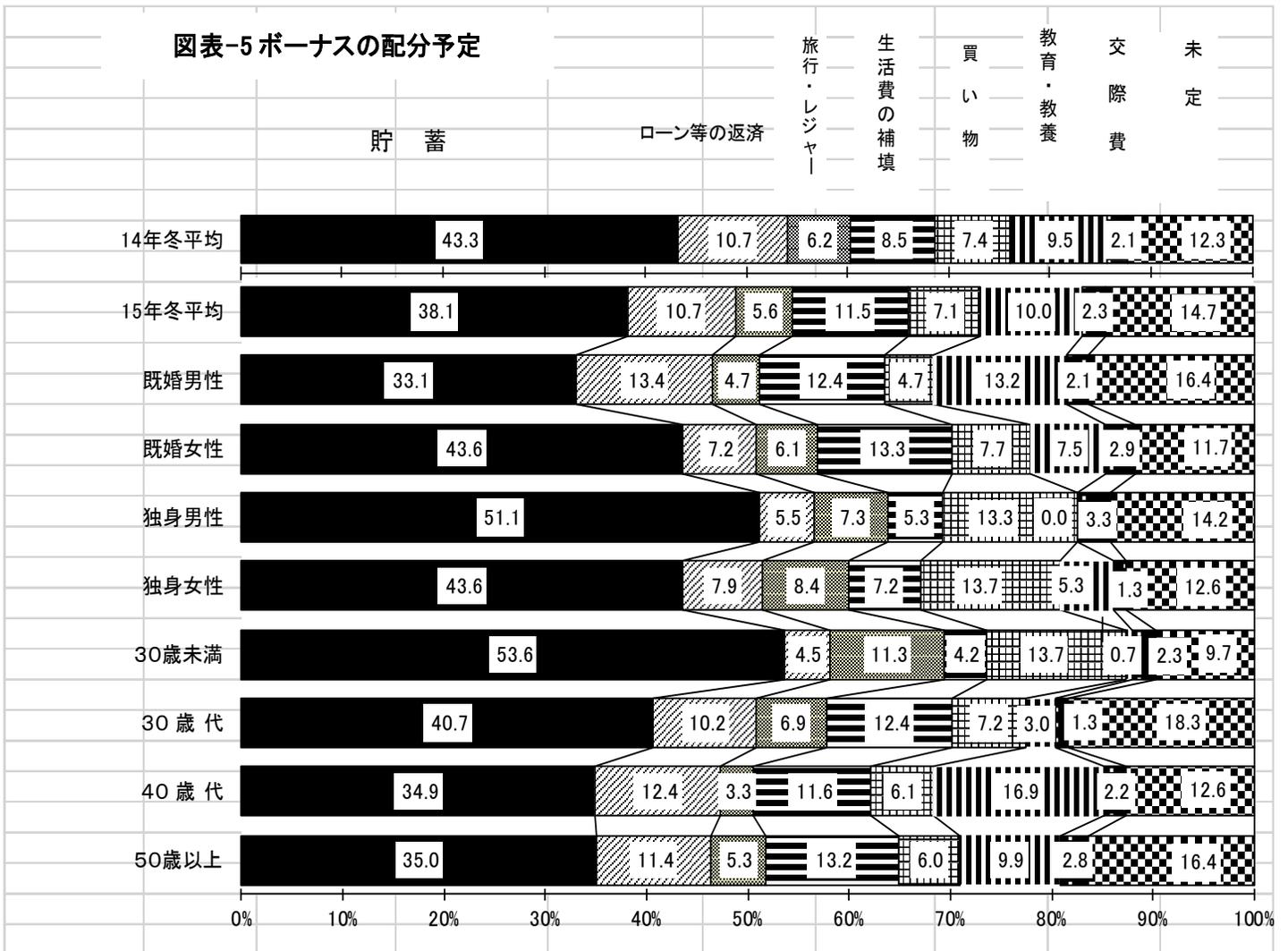
今冬の調査では、「貯蓄」、「買い物」、「旅行・レジャー」が昨冬に比較して配分割合が減少し、「生活費の補填」、「教育・教養」が増加している。「ローン等の返済」は横ばいであった。既婚・独身、男・女を問わず、「貯蓄」に回す割合は他への配分に比べ圧倒的に高い。

独身者は既婚者に比べて「貯蓄」が高く、次に「買い物」、「旅行・レジャー」のウェイトが高い。既婚者は独身者に比べて「生活費の補填」、「教育・教養」、「ローン等の返済」が高い割合を占め、独身・既婚それぞれの特徴を表わしている。

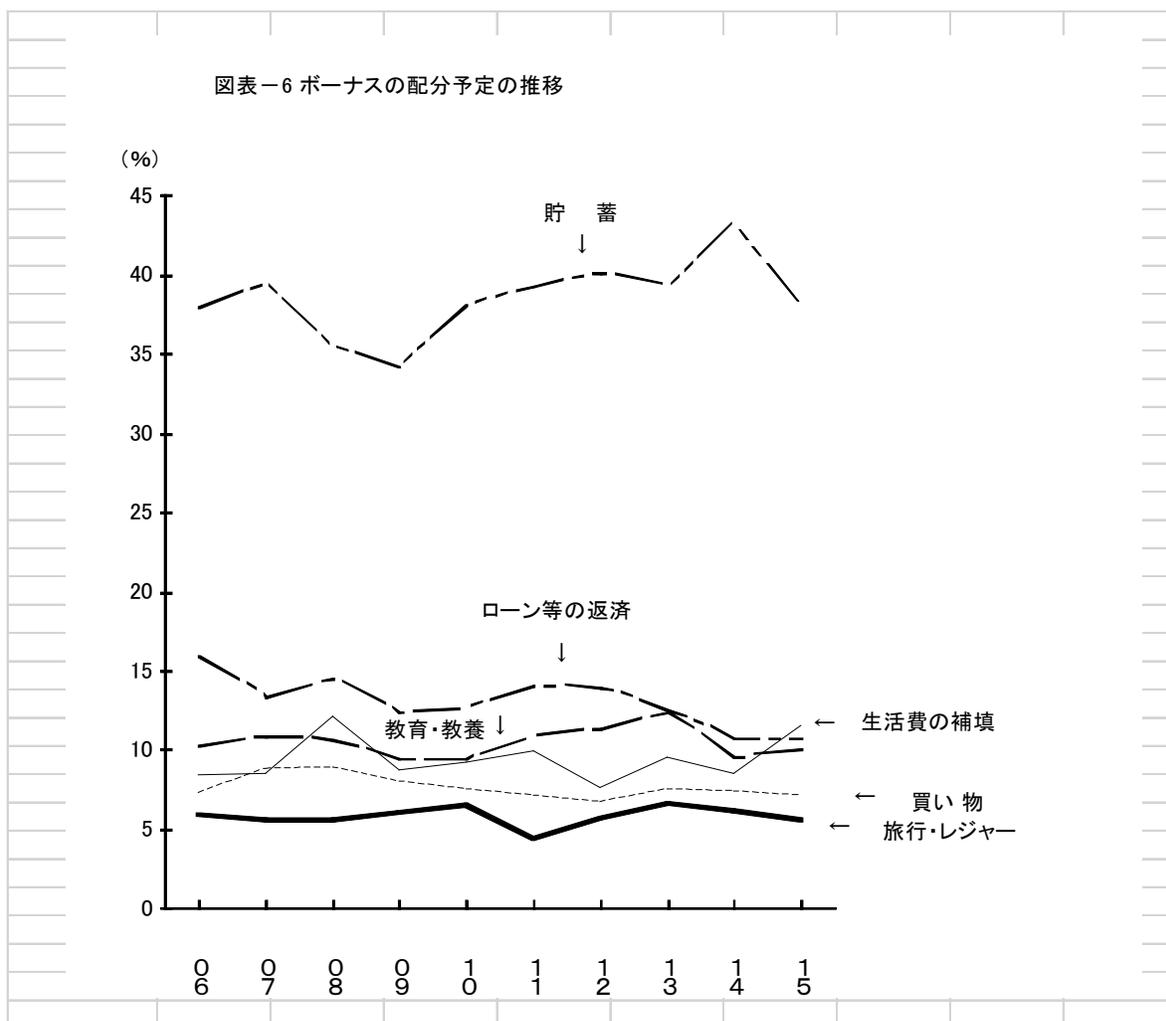
年齢別で見ても、全年齢層において配分の一番は「貯蓄」である。なかでも「30歳未満」は貯蓄志向が高く53.6%を貯蓄に回すとしている。

貯蓄以外の項目では、「30歳未満」が「買い物」に、「30歳代」は「生活費の補填」、「40歳代」では「教育・教養」、「50歳以上」は、「生活費の補填」が高くなっている(図表-5)。

図表-5 ボーナスの配分予定



図表-6 ボーナスの配分予定の推移

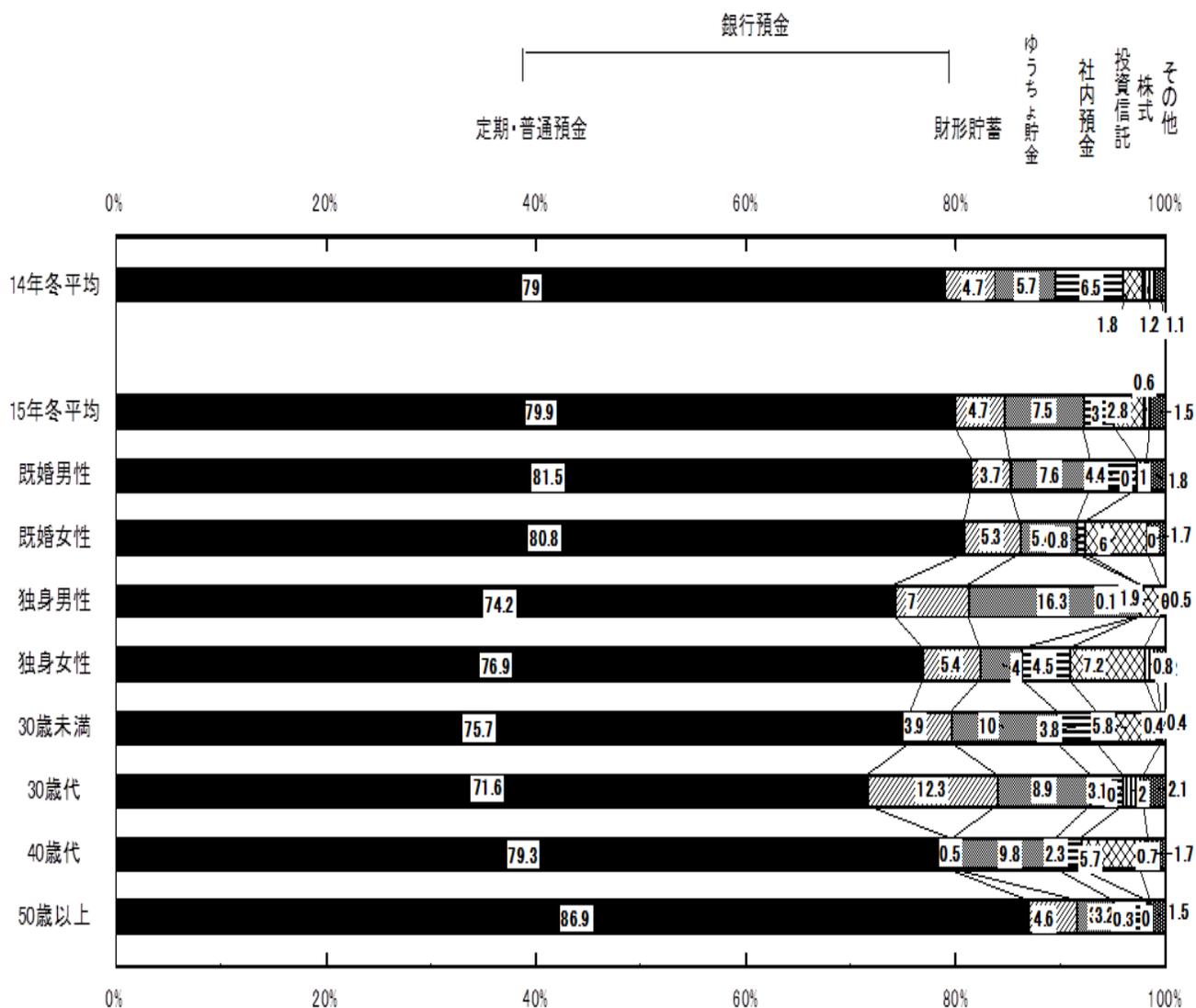


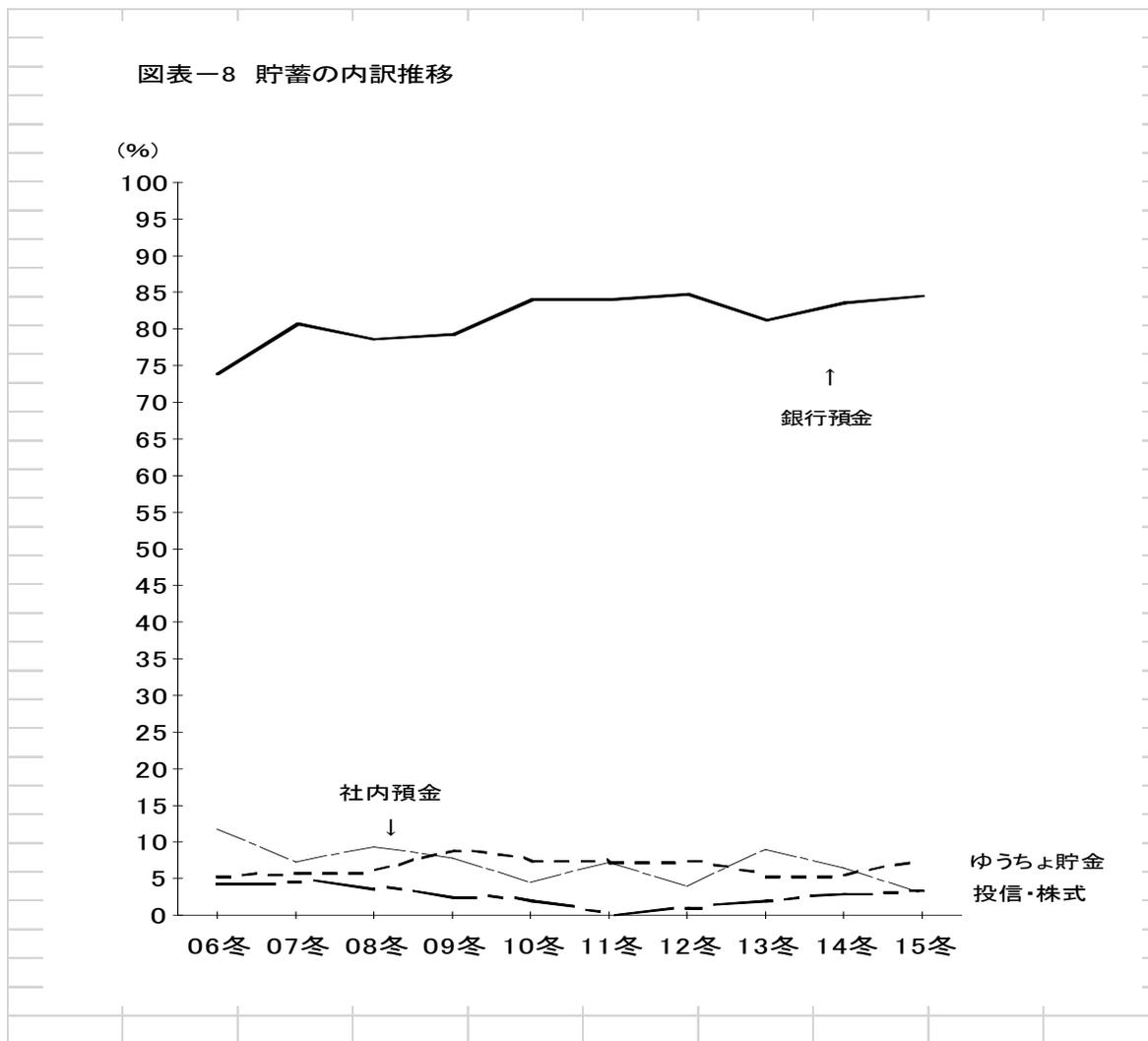
4 貯蓄の内訳

貯蓄の内訳をみると、「銀行預金(財形貯蓄を含む)」84.6%、「ゆうちょ貯金」7.5%、「社内預金」3.0%の順となっている。また、この3項目で全体の95.1%(昨冬95.9%)を占めている。預貯金以外の金融商品としては投信・株式が全体の3.4%(昨冬3.0%)で若干増加傾向にある(図表-7、図表-8)。

貯蓄の内訳を、既婚・独身、男・女別でも、いずれも「銀行預金」の割合が一番高い。銀行預金以外では、男性は「ゆうちょ貯金」が女性は「投資信託」の割合が高い。
 年齢別でも、各年齢層で「銀行預金」が一番高く、特に「50歳以上」では90%以上を占める。「銀行預金」以外では、全ての年齢層で「ゆうちょ貯金」の割合が高い。

図表-7 貯蓄の内訳



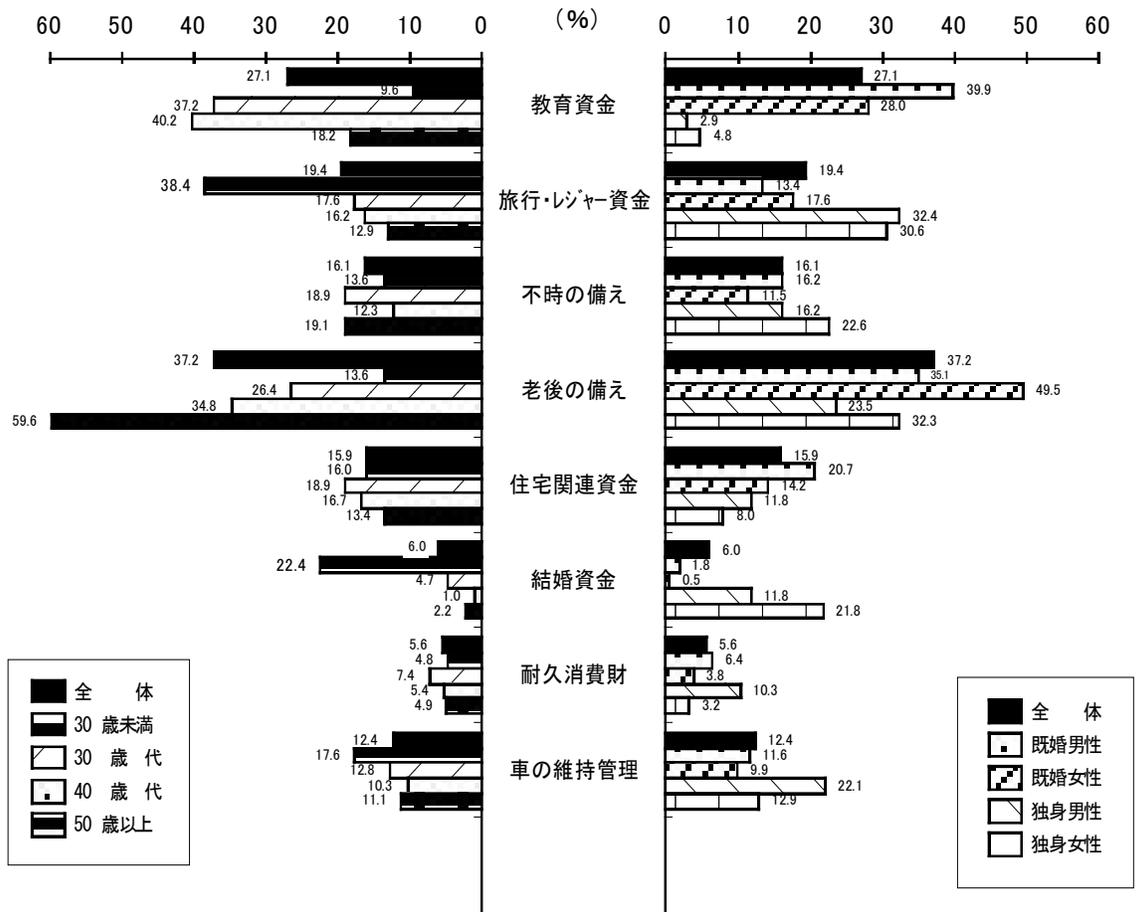


5 貯蓄の目的

貯蓄の目的は、1位「老後の備え」、2位「教育資金」、3位「旅行・レジャー」、4位「不時の備え」、5位が「住宅関連資金」となった。

貯蓄の目的(複数回答)は、1位「老後の備え」37.2%に続き、2位「教育資金」27.1%、3位「旅行・レジャー」19.4%、4位「不時の備え」16.1%、5位「住宅関連資金」15.9%、6位「車の維持管理」12.4%、7位「結婚資金」6.0%の順である(図表-9)。

図表-9 貯蓄の目的(複数回答)

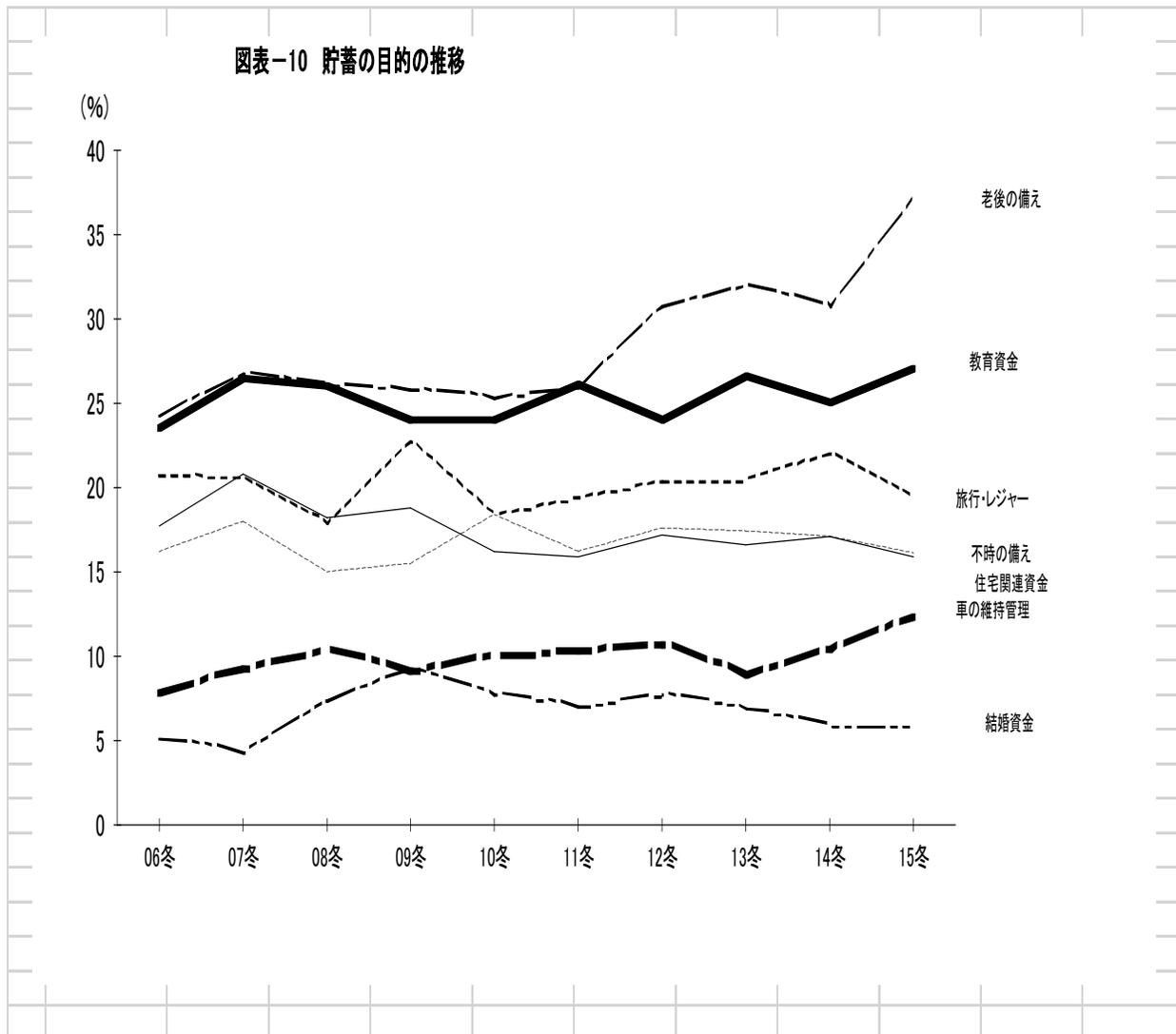


注)左欄は年齢別、右欄は既婚男・女性、独身男・女性別

年齢別にみると、「30歳未満」は「旅行・レジャー」(38.4%)、「30歳代」「40歳代」は「教育資金」(37.2%・40.2%)、「50歳以上」は「老後の備え」(59.6%)が他の年齢層に比べそれぞれ高く、各年代のライフスタイルの特徴が表われている。

既婚・独身、男・女別では、既婚男性は「教育資金」(39.9%)、独身男性は「旅行・レジャー」(32.4%)、既婚女性・独身女性は「老後の備え」(49.5%・32.3%)をそれぞれ貯蓄目的としてトップに上げている。

図表-10 貯蓄の目的の推移



6 ボーナスイで購入したい主要品目

購入希望主要品目では、1位「婦人服」、2位「紳士服」、3位「鞆・ハンドバッグ」、同位「子供服」が上位を占めた。その他5位「くつ」、6位「家具・インテリア」、7位「パソコン」、同位「化粧品」、「電話・携帯電話機」、10位「乗用車」となった。

ボーナスで買いたいもの(複数回答)上位は、「婦人服」(19.5%)、「紳士服」(12.8%)、「鞆・ハンドバッグ」(9.1%)、「子供服」(9.1%)である(図表-11)。

既婚・独身、男・女別では、女性は既婚・独身を問わず「婦人服」、男性は既婚・独身とも「紳士服」が1位である。この傾向は、昨冬も同様であった。

| 全体 | | | | (複数回答、単位：%) | | | |
|----------|------|------|------|-------------|------|----------|------|
| | 13冬 | 14冬 | 今冬 | 既婚男性 | | 既婚女性 | |
| 婦人服 | 17.0 | 20.8 | 19.5 | 紳士服 | 18.6 | 婦人服 | 20.9 |
| 紳士服 | 11.1 | 12.8 | 12.8 | 婦人服 | 14.3 | 子供服 | 8.2 |
| 鞆・ハンドバッグ | 6.3 | 8.9 | 9.1 | 子供服 | 13.7 | 家具・インテリア | 7.1 |
| 子供服 | 7.2 | 8.7 | 9.1 | 家具・インテリア | 8.2 | くつ | 7.1 |
| くつ | 9.5 | 9.1 | 8.4 | 冷蔵庫 | 7.6 | 鞆・ハンドバッグ | 7.1 |
| 家具・インテリア | 8.8 | 8.8 | 8.0 | 独身男性 | | 独身女性 | |
| パソコン | 6.9 | 4.8 | 5.1 | 紳士服 | 23.5 | 婦人服 | 41.1 |
| 化粧品 | 3.8 | 4.7 | 5.1 | パソコン | 13.2 | 鞆・ハンドバッグ | 29.0 |
| 電話・携帯電話機 | 3.9 | 3.3 | 5.1 | スポーツ用品 | 11.8 | くつ | 19.4 |
| 乗用車 | 4.2 | 3.1 | 4.7 | くつ | 10.3 | 化粧品 | 15.3 |
| | | | | 鞆・ハンドバッグ | 8.8 | 家具・インテリア | 8.1 |

7 暮らし向きの実感と今後の見通しについて

(1) 収入

半年前と比べ、収入が「増えた」との回答割合は14.8%で、半年後の先行きについての「増えそう」との回答は7.5%で、7.3ポイント減少。一方「減った」は12.2%で、半年後の「減りそう」は16.4%で4.2ポイント増加する。収入については先行きを厳しく見る層が増加しているが70%以上が「変わらない」としている。

(2) 消費支出

半年前と比べ、支出を「増やした」との回答割合は22.6%で、半年後の先行きについての「増やす」との回答は10.2%で、12.4ポイント減少。一方「減らした」は14.0%で、半年後の「減らす」は26.5%で12.5ポイント増加し、家計支出は先行き縮小傾向を示す回答となったが、60%以上が「変わらない」としている。

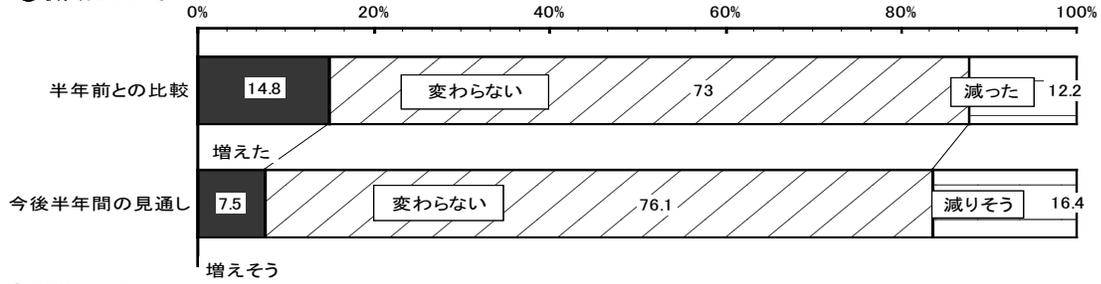
(3) 生活全般

半年前との比較では「良くなった」(6.8%)を「悪くなった」(9.9%)が3.1ポイント上回っており、半年後の見通しは「良くなりそう」(5.0%)と「悪くなりそう」(19.5%)の差が14.5ポイントに開き、今後について不安を持つ層が増加する結果となったが70%以上が「変わらない」としている(図表-12)。

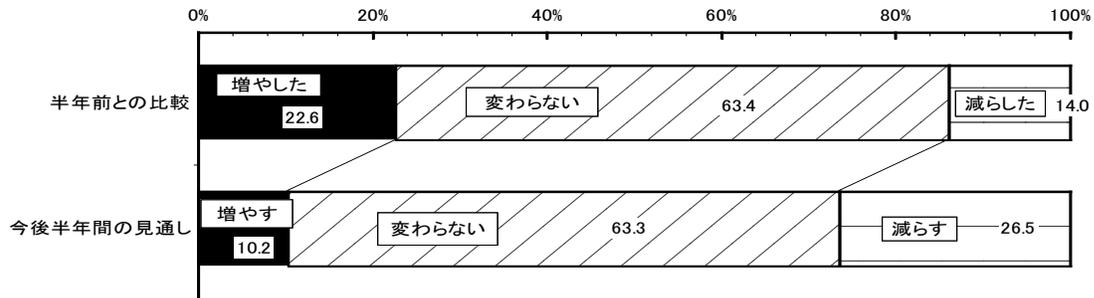
(高橋 廣)

図表一12 暮らし向きの実感と今後の見通し

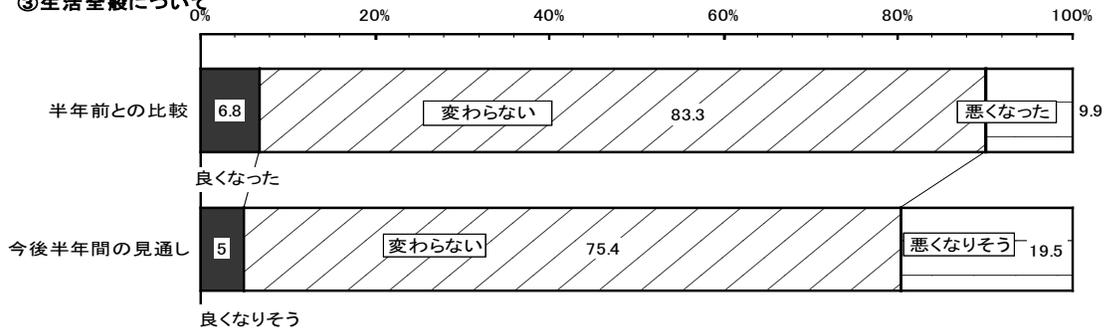
①収入について



②消費支出について



③生活全般について



| 回答者の構成 | | | | | (人) |
|--------|-------|------|------|-------|-----|
| | 30歳未満 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳以上 | 計 |
| 既婚男性 | 12 | 75 | 114 | 127 | 328 |
| 既婚女性 | 13 | 39 | 52 | 78 | 182 |
| 独身男性 | 40 | 11 | 9 | 8 | 68 |
| 独身女性 | 60 | 23 | 29 | 12 | 124 |
| 計 | 125 | 148 | 204 | 225 | 702 |

| アンケート調査実施要領 | |
|-------------|-------------------------|
| ①方 法 | 千葉銀行への来店客を対象として、ロビーにて実施 |
| ②実 施 日 | 2015年10月5日～7日 |
| ③対 象 地 域 | 県内全域 |
| ④対 象 人 員 | 1,000人 |
| ⑤有効回答数 | 702人 |
| 有効回答率 | 70.2 % |